

## 内 容

### \* イギリスにおけるリカバリー研修ツアーの報告 (10)

#### ○ 意識向上と反スティグマキャンペーン (1)

ファウンデーショントラスト ダイアナさん

### \* イギリスにおけるリカバリー研修の報告 (10)

#### ○ 意識向上と反スティグマキャンペーン (1)

ファウンデーショントラスト ダイアナさん

こんにちは。私はダイアナです。

私の目標は、人々のメンタルヘルスについて、メンテナンスをすることです。

私たちの組織は、ファウンデーショントラストという位置づけになっています。ファンデーショントラストというステータスを持つためには地域住民の方たちの参画、その方たちの意見を反映することが大事です。そのためにその方たちをリクルートしなければなりませんでした。

私自身は精神保健の病の経験がありませんので、この仕事を通して地域住民の色々な方たちとお話することで、初めてスティグマの重大さというものに気づくことになりました。ですからスティグマというものについて対処して戦っていくことが非常に重要だと思っております。そしてそのスティグマというものが、どれほど大きな影響を与えてしまうかということなどを伝えていきたいと思っております。

今日は、そのスティグマに対して私たちが今までどのようなことをしてきたかをお伝えしたいと思います。

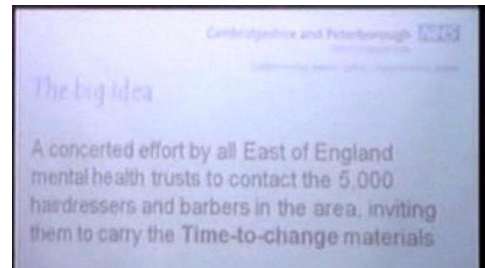
一生の間に 4 人に 1 人の方が何らかの形で精神的な病の経験を知るのです。

私どものキャンペーンは迷信と事実から始まります。迷信では、精神病患者は仕事が出来ないということです。事実は、人は一生のうち 4 人に 1 人が精神の病気になるわけですから、あなたたちは精神の何らかの病を持っている人と働いているというのが現状であり、私たちのテーマは精神病について話をするということが問題ないということを訴えていくということなのです。そしてそのことを隠すことなく話すことができるのです。精神病と感じたら、それについてすぐに助けを求めればリカバリーのチャンスも多く、早いわけです。



**迷信：**精神疾患のある人は働けない。  
**事実：**あなたはおそらく精神疾患のある人と働いているでしょう。刑務所に入っていたと言いたいです。説明する方が楽だし、少なくともチャンスはもらえますから。

全国的なキャンペーンがあります。それに私どもも参加しました。そして「今は変化の時だ」という話をしました。私にはアイデアがありました東部イングランドの皆さんに話をしようということで、どういう形でやるかというと美容院に行って話をします。なんで美容院が良いのでしょうか、女性は男性と違うかもしれませんが美容院ではとても落ち着いて何かがリラックスして穏やかな気持ちになれるのです。とても普通のことですし、美容師さんに女性っていうのは髪をやってもらっている間に何でも話をしてしまうのです。ですから精神病について話を始めるその最初のキッカケの場所として、とても良い場所じゃないかと考えたのです。



大きなアイデア  
イースト・オブ・イングランドのメンタルヘルストラストが一丸となり、エリア内の5,000人の美容師と理容師に「変化の時」の資料を配布するよう呼びかけ

これは始めるときのキャンペーンの発表会で、デモンストレーションをしたわけです。ショッピングセンターでのキャンペーンは1年間行い去年の10月に終わりました。

その中で4つの大事な要素がございます。

まず1つ目はパートナーシップで実際に作業するということです。そして美容院だけじゃなくて地域の様々な組織と共に協力するということです。

2番目には色々な道具、ツールキットというのですかね。

そして全ての美容院さんにパンフレットを送ったり持って行ったりして、差し上げたわけです。

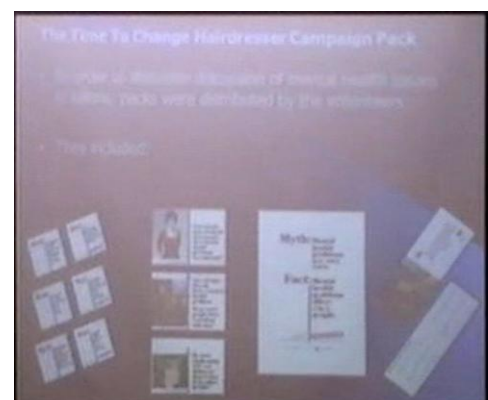
最後に、非常に重要なことで稀なことなのですが、評価作業のための予算があったのです。

この「変化の時」をやるにあたりまして、トラストの上部である戦略当局というのが幾つか地方毎にありまして、その戦略当局が予算をくれたのです。「変化の時」のために、このキャンペーンに参加する美容師さんは非常にハッピーでした。美容師さんは、お客さんと何も問題なく話しをすることができたということでした。

これがそのキットの中身です。

ですから、美容院に行けば雑誌が有りますよね、日本でもこちらでもそうです。そして、その雑誌類の1つとしてこのキットが有り、お客さんがご覧になるわけです。

そのキャンペーンの非常に大きな部分は、日本では判りませんが、イギリスでは非常に有名なコメディアンでスティーブ・クライさんといいます。コメディアンなのですが俳優さんとしても有名で、自分自身の精神保健の問題を解決するというようなことでキャンペーンに参加しています。スティーブ・フライさんは精神の病を持っている方でアメリカ出身です。そして芸人人とコメディアンという立場で、イギリスで活躍している方です。



どの様に行うかという、色々な方法を試みます。

これは病院さんに置いたものですけど、各組織に使ってほしいというツールキットも作りました。

各組織の人たちが外に出て行って一般市民と色々な話し合いをします。その時に使えるツールキットとして、質問用紙や手紙、色々な道具をそろえたわけです。

(シェパード)これらの事は NHS トラストと民間非営利組織とのパートナーシップになるわけです。

(ダイアナ)そのヘアサロンにツールキットを届けてアタックしたのは、NHS トラストとしての大義があるわけですね。そして関係性を深め、コミュニケーションを深めていく必要が有ります。

彼らは人々と長い期間関係を保っています。そして患者さんとも強いつながりを持っています。

この話を聞いて多くの方は素晴らしいアイデアだと思うことでしょう。そして本当に素晴らしいアイデアだと言ってくれました。でも、しかしの話が続きます。

このアイデアは単純に見えますが、単純では無かったのです。

今まで言ったことがありませんが、実際に呼びかけてくれる美容師さんはなかなか見つけれませんでした。NHS の人たちはとても忙しいので、私たちに協力してくれるのは難しいのです。

そしてメディアも興味を持ってくれないのです。

そして次はターゲットについてお話ししたいと思います。

ターゲットは 7 つのエリアです。

ベッド・アンド・ルートンというエリアには 436 サロンがあります。そして、84 サロンが協力してくれています。

CPFT では 601 サロンがあり、76 サロンが協力してくれています。

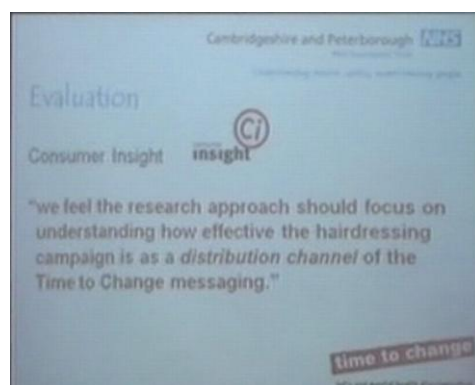
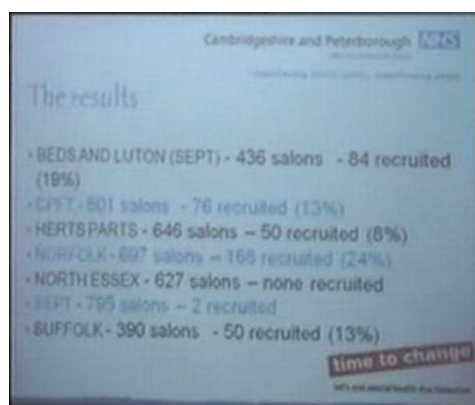
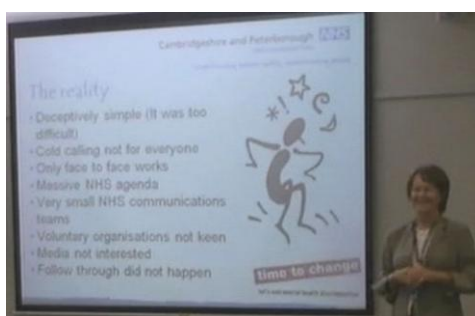
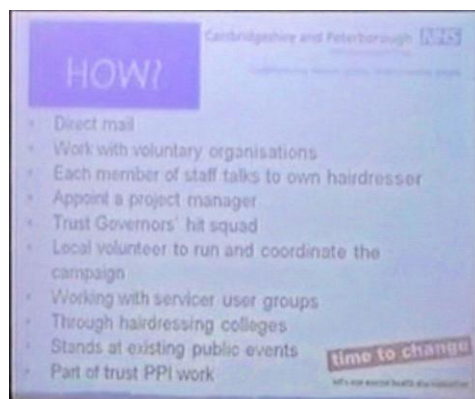
ハート・パートでは 646 サロンで 50 サロンです。

ノーフォークでは 697 サロンで 165 サロンです。

ノースエセックスでは 627 サロンありますが、ここには誰もいませんので関係を作りにくくなっています。ですから情熱を持っている人を探さないといけないわけです。

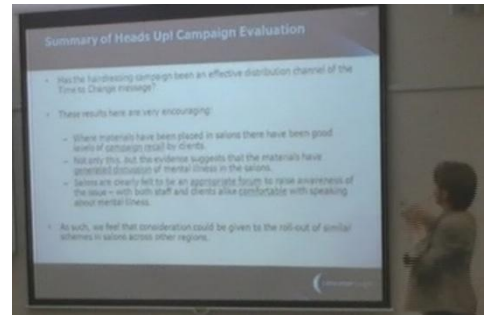
私たちは、このキャンペーンを通して差別を今までよりは少なくなるという事を望んでおりました。でも私たちが評価できるのは反スティグマというメッセージを、どれだけ効果的に伝えることができるかということだったのです。

結果はかなり良いものでした。でも問題はヘアサロンで髪を切った人がそのキャンペーンを覚えているかどうかということですね。そしてそのお話を楽しんでディスカッションしたか、そしてその後もそのサロンを受け入れたかという事です。





私たちはヘアサロンといった場所が、こういう話を始めるのが良いところだと思って始めたわけです。それで受け入れてくれたヘアサロンの方に非常に効果的だったこと、そしてどういうことをメッセージとして伝えたかったのかということ、それらを美容師さんたちに伝えました。その結果、精神保健についてお客さんと話をすることに違和感を持つことなく話をさせていただく事が出来るようになりました。

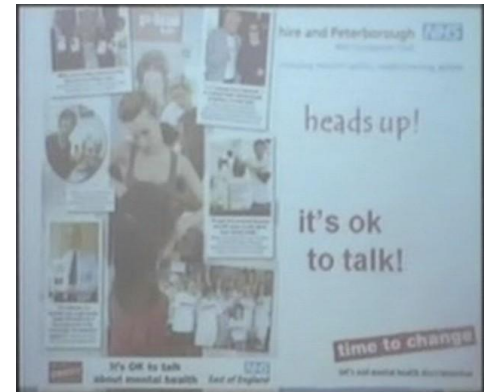


お客さんたちが本当に精神保健について、例えば友達、親、兄弟とか、色々な経験があるということ話をすることを喜んでいたということにびっくりしました。

美容師さんたちはヘッドアップというような感じで、精神の問題を持っていても頭を上げて話しても良いのだよ。という事をご理解いただけた事と思っています。

他のキャンペーンについても話したいと思いますが、その前に何か質問がありましたらどうぞ。

お客さんの方が我々のパンフレットを見て「これ何のことなの？」と聞くかもしれません。



そして、こういうふうに言うかもしれません「こういうパンフレットをサロンに置いて嫌な思いしない？」

その時、「問題ないよ、素晴らしいから どうぞ来てください、持ってきてください」と答えていただきました。

その意味は、サロンの人たちが情報を要求してくれたのは、私たちの側にいると理解できることだったのです。既に私たちの味方でそういう準備ができている、考え方がある人たちだったのですね。

男性についてはわかりませんが、女性は気分が沈むと美容院に行くと髪を切ったりすると気分が良くなることが有るのです。ですから美容院というのはこの様な話をするのに良いところだと思うのです。

(参加者)美容院に目を付けたという事は、とても凄い事だと思います。

(ダイアナ)全ての広大な地域で広めていくには、美容院というのはどこにもありますから良いと思ったのです。広く広めていく上で、ほとんどの人が美容院に行くわけですね、もし私にもっと時間やお金があれば、私たちは特定の文化、アフリカ系のアフロ髪形を専門とする美容室など専門性の高い美容室に行くでしょう。そしてその中で、精神保健のメッセージは変わってくと思うので、非常に重要なポイントです。

アフリカやアジア文化に係わる人々の中には、精神保健の問題を家族内で隠しておきたいという文化があります。そこで当然アプローチの仕方も違ってくと思います。

(参加者)美容師に対して、お金はどの位支払ったのですか？

(ダイアナ)お金は払っておりません。もしお金を払ったならリクルートするのは簡単だったかもしれません。予算と時間が限られた中で何が出来るか、というチャレンジになるわけです。

次号に続く